
米国型雇用の「働きやすさ」をもたらす価値観と概念 — 在日米軍基地日本人現地雇用における研究事例 —

指導教授: 佐野 哲 教授

2017 年度法政大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了

人材・組織マネジメントコース

後藤 立

これまで、在日米軍基地で働く日本人労働者の労働環境の実態についてはあまり明らかにされていない。そこで本研究では、在日米軍基地で働く日本人労働者の労働環境に焦点を当て、なぜ基地は日本人労働者、特に女性にとって働きやすいと感じられる職場なのか、何が機能して働きやすい労働環境を作り出しているのか、そのエッセンスを考察し、明らかにすることを試みる。

在日米軍基地という労働環境には、米軍の「機会の平等：Equal Opportunity（以下、「EO」と記す）」の概念が強く影響しているものと考えられる。制度面では EEO「雇用機会均等：Equal Employment Opportunity（以下、「EEO」と記す）」のなかで、均等待遇が日本人労働者の働きやすさに大きく寄与していることは疑いの余地はないのだが、それ以外に制度と連動して米国人による何かが EO/EEO に働きかけていると考えられる。そうでなければ、基地と同様の均等待遇の制度をもつ企業であれば、どこも労働者は同じように働きやすいと感じることができるとは考えられる。本研究では、そのエッセンスが何なのかを探究することを研究課題とした。

在日米軍基地労働者にとって働きやすい労働環境を作り出す条件は、大きく分けて二つの要素が考えられる。一つは、制度の確かな運用であり、もう一つは、米国人（軍人・軍属）の存在である。この二つについて先行研究を踏まえ、複数の仮説設定から調査分析をおこなった。

調査対象としたのは、在日米軍基地（米海軍横須賀基地）で働く現職労働者（元同僚）および筆者が直接面識のない男女合わせて 30 名を対象者とした。働きやすさは永続勤務につながるだろうという観点から、できるだけ 10 年以上の勤続経験者を調査対象とした。インタビューおよびメールによるアンケート調査をおこなった。

調査結果から、米軍基地の EO/EEO と連動して、米国人の思考法（通念と価値観）が、日本人労働者、特に女性の働きやすさに影響していることが仮説検証から見とれ、在日米軍基地における働きやすい労働環境のメカニズムの仮説を導き出した。

明らかになった点は、働きやすさの条件として（１）「基地では、機会均等、均等待遇の制度が正しく運用されている。そして、その制度を日本人労働者の誰もが、必要な時に利用することができる体制が整えられていること。」（２）米国人の結果重視の思考、すなわち「実利主義」による影響から、日本人労働者に主体性をもたらしていること。（３）（１）と（２）の条件が揃えば、日本人労働者は「安心感」を手にする。安心感が享受されれば、日本人労働者は、働きやすい職場であるという認識に至るというメカニズムを仮説として導き出した。

また、本研究での事実発見を踏まえ、最後に労働者が働きやすく思える労働環境づくりの手助けとなるための含意について検討している。